

## ヨシ帯周辺における魚類相

磯田能年・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

### 1. 目的

ヨシ帯はニゴロブナ仔稚魚期の重要な生育場である。本研究では、ヨシ帯周辺の基礎的データとしてニゴロブナを含めた魚類相を把握することを目的とした。

### 2. 方法

調査は、長浜市延勝寺地先の天然ヨシ帯周辺において2021年7～10月と2022年6月～11月にかけて、および2022年6～11月に近江八幡市牧地先の造成ヨシ帯周辺において実施した。採捕には張網(小型定置網)を用いた。張網は各地点とも2週間に1度設置し、設置した翌日に回収した。採捕された魚類は種ごとに個体数を計数した後、全長、体長、重量を計測した。

### 3. 結果

採捕の結果を図に示す。延勝寺、牧ともにニゴロブナ、カネヒラ、オオクチバス0歳魚、ブルーギルの4種が多く出現した。延勝寺では48～98%、牧では52～95%をこの4種が占めていた。

ニゴロブナについては、延勝寺、牧ともに9月中旬以降はほぼ採捕されておらず、沖合へと移動したものと考えられる。

2021年と2022年の延勝寺、2022年の牧いづれにおいても7月から8月上旬にかけてオオクチバスが出現、8月下旬以降はブルーギルが優占した。

以上のことから、ニゴロブナはヨシ帯周辺を利用していると考えられるが、外来魚の食害が懸念される。

